

令和4年9月能代市議会定例会

市長説明要旨



令和4年9月能代市議会定例会の開会に当たり、提出議案の説明に先立ち、その後の市政及び諸般の動きなど、その大要を御報告いたします。

初めに、大雨対応と被害についてであります。8月3日、9日から13日、15日と16日の各期間に大雨・洪水警報や土砂災害警戒情報等が立て続けに発表されたことから、適宜災害対策本部等を設置し、情報収集や警戒に当たるとともに、降雨や河川の増水等の状況に応じた避難指示の発令や避難所の開設等により、市民の安全安心の確保に努めてまいりました。

いずれの大雨でも人的被害はありませんでしたが、家屋の床下浸水のほか、市道や河川、農地・農業用施設、林業用施設に被害が発生しております。

緊急を要するものにつきましては、予備費の充用や補正予算の専決処分等により対応し、早期の復旧に努めているところであります。

新型コロナウイルス感染症の対応についてであります。7月以降、全国的に新規感染者数が急速に増え、依然高止まりの状況が続いております。本市においても、感染が急拡大し、多くの施設等でクラスターが発生しております。県では、医療体制がひっ迫しつつあることを受け、8月11日に独自の「感染拡大警報」を発令し、翌12日にはこれを国が新設した「BA・5対策強化宣言」として発出するなど、警戒を呼び掛けるとともに対策を強化しており、市といたしましても、管内の感染状況や国、県の動向等を踏まえ、注意喚起を行っているところであります。

一方で、感染拡大傾向にあっても特に行動制限を求めない中、夏祭りや成人式等の各種行事については感染防止対策を万全にしながら開催するなど、徐々にコロナ前の日常を取り戻しつつあります。

市民の皆様には、引き続き基本的な感染防止対策を徹底しながら、状況に応じた適切な行動をお願いいたします。

新型コロナワクチンの接種については、8月31日現在、3回目接種は37,999人、79.3%の方が終えております。また、4回目については、7月22日から医療従事者及び高齢者施設の従事者等が追加され、合わせて11,718人の方が接種を終えており、今後も速やかな接種を呼び掛けてまいります。

国では、新型コロナウイルスのオミクロン株に対応した新たなワクチンが開発中であることや諸外国の動向等を踏まえ、オミクロン株対応ワクチン接種を予防接種法に基づく予防接種に位置づける方向で検討しており、接種できる準備を整えるよう指示がありました。現時点では1、2回目の接種を終えたすべての方が対象とされておりますが、接種方法、ワクチンの種類及び供給スケジュール等の詳細は今後決定されることとなりますので、国の動向を注視するとともに、能代市山本郡医師

会、関係機関等と連携をとりながら、ワクチン接種が円滑に進むよう、状況に応じて適宜対応してまいります。

新型コロナウイルス感染症に関する支援策については、8月から幅広い事業者を対象とした能代市長期影響継続事業者支援金の交付を開始しており、8月31日現在、221事業者へ1億550万4千円を支給しております。このほか、「のしろトクトク商品券」やがんばるのしろの商い支援補助金、コンベンション施設運営事業者支援金、公共交通事業者車両維持支援金による支援を行っております。

今後も、安心した市民生活や経済活動が行えるよう、感染拡大防止と社会経済活動の両立を念頭に、国、県の動向等も踏まえながら、効果的な施策を検討してまいります。

次に、第2次能代市総合計画後期基本計画についてであります。市民アンケートや、総合計画市民協働会議における前期基本計画の検証等を踏まえ、現在、素案の策定作業を進めております。

今後、議会の御意見をお伺いするとともに、市民協働会議での検討やパブリックコメントによる意見募集等を行い、年度内の策定に向け作業を進めてまいります。

女流本因坊戦の開催についてであります。第41期5番勝負の第2局が10月23日に旧料亭金勇で行われることが決定いたしました。平成29年、令和元年に続いて3度目の開催で、現在2連覇中の藤沢里菜女流本因坊と上野愛咲美女流立葵杯による注目の対局となります。

市といたしましては、新型コロナウイルスの感染防止対策を講じた上で、対局前日の記念囲碁大会や前夜祭、対局当日の初手観戦や大盤解説会等を開催する実行委員会とともに対局を盛り上げてまいりたいと考えております。

人口政策・移住定住推進室の移転についてであります。市はこれまで、「能代市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、人口減少対策を総合的に展開するため、平成31年4月に、総合政策課内に「人口政策・移住定住推進室」を設置し、移住定住や結婚支援等に係る各種施策を推進してまいりました。

この度、新たな取組として、同室を交通アクセスが良く、多くの人が集まるイオンタウン能代へ移転し、本市の人口減少に対する施策や移住定住支援に関する情報発信と相談、サポートの充実を図ってまいりたいと考えております。

令和5年2月頃の移転を目指しております。移転後は、市民の皆様に加え、帰省中の本市出身者等にも気軽に情報に触れていただけるようになることから、こうしたメリットを最大限活用して、少子化対策やふるさと回帰等に資する取組をより

一層推進してまいります。

次に、能代港港湾区域内の洋上風力発電事業についてであります。地元企業も参画する丸紅株式会社を中心とした特別目的会社「秋田洋上風力発電株式会社」によりますと、7月上旬から開始した風車本体の据付工事は、8月26日に20基すべてが終了したとのことであります。

現在は、発電設備の法定検査や試運転調整等を行っており、年末までには、国内初となる本格的な洋上風力発電事業の商用運転が開始される予定であります。

こうした中、9月5日には自由民主党港湾議員連盟の国会議員12名が能代港を訪れ、地耐力強化等の港湾整備を行う大森ふ頭や港湾区域内の風力発電設備等を視察しております。

市といたしましては、日本の洋上風力発電事業のフロントランナーとして、産業振興や雇用創出、地域活性化等、地域が多くのメリットを享受できるよう、引き続き、能代洋上風力発電拠点化期成同盟会を中心に取り組んでまいります。

全国洋上風力発電市町村連絡協議会の設立についてであります。再エネ海域利用法に基づく促進区域に指定されている海域に隣接する6市2町により、「全国洋上風力発電市町村連絡協議会」が7月28日に設立されました。

都内で開催された設立総会には、本市をはじめ、発起人である男鹿市、由利本荘市、八峰町、三種町、千葉県の銚子市、旭市、長崎県の五島市のほか、「有望な区域」として整理されている海域の3市1町、港湾法における海洋再生可能エネルギー発電設備等拠点港湾が所在する2市の合わせて14自治体が出席いたしました。

本協議会は、着床式及び浮体式の洋上風力発電並びに波力、潮流等の新たな発電技術に関する調査研究を行うとともに、漁業と共生する水産振興を含む地域産業の振興並びに会員相互による情報共有等を目的としております。

今後は、有望な区域や一定の準備段階に進んでいる区域の市町村に加え、本協議会の活動に賛同する団体に入会を呼び掛けていくとともに、洋上風力発電等に関連する先端技術や先行事例を学びながら、会員一体となって事業の円滑な普及を図り、持続可能な循環型社会の構築に寄与できるよう努めてまいりたいと考えております。

なお、全国の協議会に先立ち、7月12日に秋田県内の沿岸地域に所在する6市2町で構成する「秋田県洋上風力発電市町村連絡会議」が発足しております。

能代次世代エネルギースクールについてであります。市内の学校に通う高校生を対象に、再生可能エネルギーに関する学びの場として、「能代次世代エネルギースクール」を7月29日に開校いたしました。高校生17名から参加申し込みをい

ただき、これまでに国や民間事業者等の講師を招いて、再生可能エネルギーの総論、地域貢献等をテーマにした講義や、市内の再生可能エネルギー施設等を巡る視察研修を実施しております。

今後、12月まで月1回程度開催し、先進的に導入が進められている再生可能エネルギーについて、関心を深める「きっかけ」を受講生に提供するとともに、能代の魅力の一つとして捉えていただけるよう、取り組んでまいります。

市といたしましては、こうした取組等を通じて、市民と発電事業者等との顔の見える関係の構築を図るとともに、次代を担う若者の地元定着につなげてまいりたいと考えております。

能代西高等学校跡地での工業団地の整備についてであります。企業の進出に伴い、能代工業団地に分譲可能な用地が無くなることから、新たな工業団地の整備を検討することとし、令和3年度に候補地調査を実施いたしました。

今年度、この調査結果をもとに市内で検討を進め、能代西高等学校跡地が最も有力な候補地となり、7月26日に同地の所有者である秋田県に対して工業団地としての整備を要望し、8月31日に知事から「前向きに検討する」との意向が示されました。

杏林製薬株式会社からの寄附についてであります。新型コロナウイルス感染症予防に真摯に取り組む企業活動の一環として、本市へ手指消毒剤1万本の寄附申出があり、9月1日に贈呈式が執り行われました。

コロナ禍において、手指消毒剤は生活必需品となっており、この度の寄附は大変ありがたいこととあります。

今後、市内の保育所・幼稚園、小学校等へ配布させていただく予定としております。

次に、J-クレジット制度を活用したカーボンオフセットへの取組についてであります。本制度は、二酸化炭素等の温室効果ガスの排出削減量や吸収量をクレジットとして国が認証し、地球温暖化対策の資金を循環させ、社会全体で活用することを目的としております。

市では、2050年カーボンニュートラルの達成やSDGsに積極的に取り組むため、市が管理している杉市有林を活用できないか検討していたところ、令和4年2月に丸紅株式会社からJ-クレジット制度活用について御提案がありました。

現在、対象となる森林の要件や範囲等の確認作業を行っており、5年度からの実施に向けて協議を進めてまいります。

次に、第4次能代市社会教育振興中期計画についてであります。現行の第3次計画が令和4年度で終了することから、6月28日に策定委員会を設置し、5年度から9年度までの社会教育行政の基本的方向性を定める第4次計画の策定に着手いたしました。

現在、現状や課題の把握、分析を行っており、今後、社会教育関係者からの御意見もお伺いしながら、4年度中に策定することとしております。

能代市グラウンド・ゴルフ場についてであります。10月1日の供用開始に向けて準備を進めており、オープン当日は、セレモニー及び記念大会を開催することとしております。子どもから高齢者まで幅広い年齢層の方に御利用いただき、市民の皆様の健康づくりや生きがいくりにつながることを期待しております。

次に、単行議案について御説明いたします。

能代市職員の育児休業等に関する条例の一部改正は、妊娠・出産・育児等と仕事の両立支援のため、育児休業の取得要件の緩和をしようとするものであります。

能代市地方活力向上地域における固定資産税の課税免除及び不均一課税に関する条例の一部改正は、地域再生法第17条の6の地方公共団体等を定める省令の一部改正に伴い、課税免除及び不均一課税の要件を改めようとするものであります。

能代市保育所条例の一部改正は、保育施設への入所児童数の減少等に伴い、能代市第四保育所を廃止しようとするものであります。

このほか、字の区域の変更、土地の取得、能代工業団地拡張造成工事の請負契約、令和3年度の能代市一般会計決算及び特別会計決算の認定、能代市水道事業会計決算の認定及び能代市下水道事業会計決算の認定について提案しております。

次に、令和4年度能代市一般会計補正予算案の概要を御説明いたします。

このたびの補正予算については、これまでに国、県から内示等を受けた事業について所要額を計上したほか、市単独事業は、当面緊急を要するものについて補正しております。

まず、歳入の主なものとしては、個人市民税の追加、法人市民税の減額、普通交付税、新型コロナウイルスワクチン接種対策費負担金及び新型コロナウイルスワクチン接種体制確保事業費補助金の追加、財政調整基金繰入金の減額、前年度繰越金の追加、臨時財政対策債の減額等であります。

次に、歳出の主なものについて御説明いたします。

総務費においては、財政調整基金積立金5億2,601万4千円を、

民生費においては、障害福祉サービス等給付費1,100万円を追加し、地域介護・福祉空間整備等施設整備交付金1,546万円及び過年度国庫負担金等返還金、社会福祉費・児童福祉関係合わせて5,679万9千円を計上し、

衛生費においては、新型コロナウイルスワクチン接種対策事業費3億8,845万7千円等を追加しております。

農林水産業費においては、大豆生産拡大支援事業費補助金2,950万円を、

商工費においては、能代市トラック運送燃料高騰対策支援事業費1,808万円を計上し、企業誘致推進事業費4,750万円等を追加しております。

土木費においては、住宅リフォーム支援事業費2,400万円を、

教育費においては、埋蔵文化財調査事業費886万7千円を追加し、向能代公民館改築事業費669万6千円等を計上しております。

以上、一般会計補正予算案の概要を申し上げましたが、補正額は11億8,676万8千円となり、これを8月24日専決処分した後の既定予算に加えますと、一般会計の総額は323億4,830万円となります。

このほか、令和4年度各特別会計補正予算案につきましては、提案の際、詳細に御説明いたしますので省略させていただきます。

また、承認案件として、専決処分した令和4年度能代市一般会計補正予算2件を提出しております。

以上、よろしく御審議の上、適切な御決定を賜りますようお願い申し上げます。



